

「情報処理学会論文誌 プログラミング」の編集について

論文誌プログラミング編集委員会

1. 対象分野

プログラミングはコンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な研究分野であるとともに、コンピュータがある限り不可欠であり続ける技術である。並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて、プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう。

「情報処理学会論文誌 プログラミング」は、プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である。具体例として次のようなテーマがあげられる。

- プログラミング言語の設計, 処理系の実装
- プログラミングの理論, 基本概念
- プログラミング環境, 支援システム
- プログラミング方法論, パラダイム

さらに、これらを応用したシステムの開発事例も対象に含む。上記以外でも、プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる。

2. 編集方針

本論文誌は、プログラミング研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある。研究会発表をせずに論文誌への投稿だけを行うことはできない。投稿者が用意する研究会発表用の資料が、内容的にそのまま本論文誌への投稿論文となる。逆に、本論文誌への投稿をともなわない研究会発表は可能である。そのような発表や、あるいは投稿論文が不採録となった発表については、アブストラクトが本論文誌に掲載される。

本論文誌に掲載する論文には、通常のオリジナル論文とサーベイ論文の2種類がある。論文の種類は投稿時に著者自身が指定する。論文の記述言語は日本語または英語のいずれかとする。論文の長さには制限は設けない。

3. 査読基準

基本的に、減点法に陥ることを避け、論文の良い点を積極的に評価するという方針を貫く。具体的には、新規性や有効性などの評価項目のうち、どれか1つの点で特に優れていると認められるならば採録する。体裁だけが整った論文より、若干の不備はあっても技術的な貢献の大きい論文

を積極的に受け入れる。

このような観点から、たとえば次にあげるような、従来は論文としてまとめることが難しかった内容について論じた論文も、本論文誌は可能な限り受け入れる。

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイデアの提案
- 概念の整理, 分類法, 尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者および研究会での発表希望者は、発表会開催日の約2カ月前までに発表申し込みをする。具体的な申し込み方法は研究会のWebサイト (<http://sigpro.ipsj.or.jp/>) を参照されたい。申し込みの際には、所定の申し込みフォームに、本論文誌への投稿の有無、オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定などを明記する。アブストラクト(和英両方、和文は600字程度)も申し込み時に提出する。論文投稿を希望した場合は、研究発表会の約1カ月前までに、別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する。

毎回の研究発表会の直後、編集委員会が開催され、各論文について1名の査読者を決定する。査読報告をもとに、編集委員会は採録、条件付き採録、または不採録のいずれかの判定を行い、発表会開催後3週間程度で発表者に採否通知を行う。照会の手続きはないが、条件付き採録の場合は採録のための条件が示される。また、論文改善のための付帯意見が添付される場合がある。この場合は、3週間以内に改良版を作成する。最終的に採録となった論文が、学会の諸手続きや校正を経て掲載される。採録論文が英語であった場合、2015年1月から始まったJournal of Information Processing (JIP) との連携により、JIPに正本が、本論文誌にそのプレプリントが掲載される。

本論文誌は、電子図書館(情報学広場:情報処理学会電子図書館)上にオンライン出版され、研究会登録者は発行直後から無料で閲覧できる。また、発行後2年経過した論文誌は、無料で閲覧できる。英文論文が掲載されるJIPは、オープンアクセスである。

5. 研究発表会

2018年度の発表会の日程は次のとおりである。

- | | |
|-----------|--|
| 6月 7～8日 | 岐阜大学 サテライトキャンパス |
| 8月 1日 | 熊本市国際交流会館
[SWoPP—並列/分散/協調プログラミング言語と処理系] |
| 10月 31日 | 日本アイ・ビー・エム株式会社 |
| ～11月 1日 | 箱崎事業所 |
| 1月 17～18日 | 福山市ものづくり交流館 |
| 3月 | (調整中) |

本号の編集にあたって

2018年度第1回研究発表会
担当編集委員 今井敬吾, 平石 拓

本号は、2018年度第1回プログラミング研究会（通算第119回）からの採録論文3件からなる。

第1回プログラミング研究会は、2018年6月7～8日に岐阜県の岐阜大学サテライトキャンパスで開催された。この回はテーマを特に設けず、幅広く論文を募集した。研究会論文誌への投稿をともなう発表のほか、論文投稿をともなわない発表を歓迎したことも、これまでと同様である。さらに、この回では通常の発表（発表25分、質疑20分）に加え、短い発表（発表20分、質疑10分）も募集した。その結果、通常発表7件、短い発表1件、合計8件の発表が行われた。

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は、開催日の昼休みや研究会終了後に、編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバで現地にて複数回開催した。ただし、投稿論文の著者と利害関係のある出席者は、その論文についての議論の間は退席した。委員会会合では、先の節に記した対象分野、編集方針、および査読基準に従って、各投稿論文の評価できる点について意見が交され、その場で可能な限り査読者を選定した。各査読者は、編集委員会での議論をふまえて査読した。

最終的に、研究会で投稿を希望したうち3件の論文（通常論文）が採録となった。他の発表については1ページの概要を掲載してある。掲載順序は論文、概要のそれぞれについて当日の発表順に従うこととした。

本号でも、英語による研究公開を促進することを目的として、日本語採録論文を英語化する試みが実施された。これは、採録論文著者の希望に基づいて、著者が採録された論文を英語化するものである。採録時の内容を変えないように英語化することと、英文校正を通すこととが、英語化論文採録の条件である。採録時と英語化後で論文の内容に差異がないことは、英語化担当編集委員によって確認され

た後、編集委員会によって承認される。本号では1件の英語論文と2件の日本語論文が採録され、日本語論文のうち1件について英語化し掲載することとなった。

最後に、研究会開催および論文誌編集にさまざまなご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい。